第５４回　aaca 講演会
「次世代に活かす日本建築」に参加して

報告 会員 石田眞人

今里　隆

建築家

元東京藝術大学客員教授
元日本建築美術工芸協会会員

第54回aaca講演会「次世代に活かす日本建築」は建築家 今里 隆先生の60年に渉る建築家として今日まで数々の作品の設計に活かされた日本建築の伝統と未来への継承を語られました。

先ず、建築家を志された経緯は、建築模型を作る彫刻家の家に生まれ、幼少のころそのアトリエに多くの建築家が訪れていたこと、そして京都市立美術館の設計者である前田健二郎先生に会い東京美術学校に進学を勧められたと話されました。入学後、吉田五十八主任教授の研究室に入られました。吉田教授はヨーロッパを視察した際、民族・歴史・伝統が基盤になり受け継がれていた建物をたくさん見たことから、帰国後、それまでの日本建築に近代性を与え新しい日本建築を生み出そうと決心されました。今里氏はその後の吉田教授の設計手法を手本として腕を磨かれました。

吉田教授の戦後の作品は、日本美術院会館・大和文華館・そして四代目の歌舞伎座で三代目は空襲で焼失した為、四代目を吉田研究室が設計する事になり所員の今里氏も係り、昭和25年研究室の持てる力の全てを注いで完成させ、戦後の日本に希望をもたらした意義ある建物となり、今里氏は五代目歌舞伎座の建設に伴い、劇場の設計監修を任され吉田デザインを忠実に再現する為、最先端の建築技術を駆使し復原されました。

今里氏は京都南座、大阪松竹座、そして四・五代目歌舞伎座に係り、特に新しい歌舞伎座は吉田氏の足跡をたどる仕事となり、感慨深かったと語られました。

（四代目　歌舞伎座）

次に「次世代に活かす日本建築」について話されました。

現代の統一性のない都会の街並み、郊外の規格化された住宅街など、似たような光景が広がっています。建築はその地の歴史・風土に根差し、周囲の環境に溶け込むものであるべきと今里氏は数々の建物を設計されました。その基盤は学生時代奈良法隆寺の五重塔の解体修理を見学した際、浅野　清先生から塔は左右対象でなく隣接する金堂や周りの植栽・遠景の山々をも含めた比例により、周囲との調和を図るという当時の棟梁の感覚が素晴らしいとの事でした。その時から建物そのものだけでなく遠景をも含めて比例を大切にして、周囲との調和を図るということが今里氏の建築の設計における基礎となったそうです。

その比例の感覚を学ぶためには、形の美しい古建築を数多く見ること、さらに何度も見ることによって目を養い自分の感覚として取り込む事と言われました。

材料の吟味について話されました。

私は納得のゆく木材を見つけるために吉野や木曽、台湾まで出かけよく吟味し材料を決めます。

ようやく見つけた木材が思った通りの仕上げになった時の満足感は何にも代えがたいものです。様々な建築用材がある今、それぞれの材料の性質・耐久性を熟知してこの環境にはこの材料でこの工法が最も合い相応しいと的確な判断を下せる力が建築家としては大変重要ではないでしょうか。

また人間力の重要性も建築家を目指す次世代の方々に伝えていきたい一つと言われました。

建築家のしごとは、建物を建てたい施主の希望を現実のものにすることです。敷地に会い相応し形を造り最近では建築面積や高さ等の法的な制約が多くなり、以前にもまして難しさがありますが、造った形に施主の好みや希望を入れ間取りや詳細を決めて図面にする、工事が始まると施工をする建設会社や工務店と打ち合わせをし、現場へ出かけて工事の監理をする、それが建築家の仕事です。お施主との関係をより良く保つことは勿論ですが、頻繁に現場へ出かけ棟梁をはじめ、左官・建具などの職人さんと仲良くなることも大切です。多くの人々が力を出し合って造り上げてゆきます。皆の力が結集してこそ初めて良い作品が生まれます。

建築に関する知識だけでなく美術・歴史など広い分野に亘る勉強が必要であるし、お施主さんに信頼され、係わる会社の方々や職人さん達が『この仕事は面白い・やりがいがある』と思ってもらえる様な人間力も要求されます。これから建築家を目指す方々は机の上の勉強に限らず、何にでも好奇心を持って挑戦し様々な事を補給してゆくことが大切と思います。人間力は建築家として大変重要な要素と言われました。

今日まで関わられた主な作品を紹介されました。

最も規模の大きい作品は「国技館」です。鹿島建設との共同設計でしたが、鹿島建設には技術面、私は主にデザインを担当し、お互いの長所を出し合って完成させた作品です。国技である相撲の殿堂に会い相応しく、防災機能を備えた多目的にも利用できる建物をコンセプトに設計を進めてまいりました。外観は角を面取りにした約90メートル×90メートルの四角形の大地にどっしりとした、おおらかさを感じさせる外観となりました。大きな建物は背を高くするとバランスが悪

いので低く抑えることによって日本建築らしい落ち着きと、大相撲の力強さを表したのです。また大屋根をいかして屋根のそそぐ雨水を集め、地下に貯め雑用水として使用する雨水利用システムを完備しました。

（国技館）

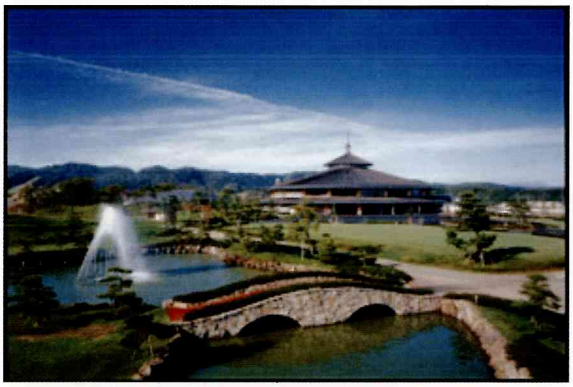
私は美術館の設計もいくつか手がけ一番印象に残っているのは、日本画家の平山郁夫先生の故郷に建てた美術館です。敷地の東北に門を置くことによって門から玄関まで長いアプローチを設けることができました。アプローチはこれから目の前に広がる絵画や彫刻が並ぶ非日常の世界への転換の場であり、これから展開する別の世界への期待感が高まる場所です。門を入り数メートル進むところで塀越しに建物の屋根が少し見えてまいります。正面には玄関が見え脇に咲く草花を楽しみながらさらに玄関に向かって進みます。　縦長に敷地を活かした距離のアプローチによって雰囲気を出すことが出来ました。アプローチによる演出は古建築にもたくさん見られます。京都の銀閣寺・西芳寺などアプローチを進むにつれて期待感が増す魅力的な空間創りが生み出されています。　玄関に入るとロビーがあり、その前に瀬戸内海の島々をモチーフとしてデザインした庭が広がります。縦長の庭をデザインするのは難しいのですが庭園デザイナーの中島 健氏が瀬戸内海に点在する島々を表す築山を上手に、雰囲気のあるスペースを配置しました。　ロビーからは大・中・小の３つの展示室を順番に見ることが出来る簡潔なプランの美術館です。瓦葺きの上屋根と銅版葺きの下屋根がバランス良く収まり、道路から見ても落ち着いた姿になりました。平山先生の自然観・芸術感を育んだをふるさとの穏やかな青い海や緩やかな緑の山並み、やさしい日差しといった瀬戸内の自然に囲まれた良い作品になったと思います。

（平山郁夫美術館）

最も新しい美術館の作品は、今年４月に竣工しました私が基本デザインと監修を務めた、北野美術館戸隠館です。現地に赴いたところ戸隠山を囲む自然に恵まれた素晴らしい敷地でした。広い敷地の中から最も良い景色を望むことが出来る高台の土地に美術館の位置を決め、六角形の展示室と２辺の長さが異なる変形六角形の建物を渡り廊下でつなぐというデザインとしました。冬は２ｍを超す雪が積もる地域で規模が小さいながら大自然の景観の中で存在感のあるとても良い美術館になったと思います。

（北野美術館戸隠館）

ゴルフ場クラブハウスの一つ、ビンセントゴルフクラブ仙台で仙台に隣接する名取市の郊外に緩やかな丘陵地帯に設計しました。松の樹木を切ることによって眼前に景色が広がり、その景色を四角い建物一点より見るよりも円形のほうが、よりワイドな景色を楽しむことが出来るので円形を基本としてアプローチ・広場・母屋・浴室等、大きさも異なる３つの円形の施設を重なり合うよう設計しました。



（現・仙台ゴルフクラブ空港コース）

社寺の設計もいたしました。社寺の設計において最初に大切なことは、その神社・寺の歴史を勉強し理解する事です。歴史を紐解く事によりおのずと設計にあたり大事にすべき物が見えてきます。敷地が広くいくつかの建物が点在する神社・寺においては各建物の建設された年代が異なり建築様式がばらばらな物があるので設計依頼を受けた建物の根本的に用途・周囲との調和を考え合わせながら進めていかなければなりません。社寺設計は後世に残るという建物を創るという光栄な仕事であるとともに、建築家として重い責任のある仕事です。

（醍醐寺霊宝館・外観）

京都・真言宗醍醐寺派総本山であり名刹の醍醐寺霊宝館増築と伝法学院新築の仕事も手掛けました。

次に私が数多く手がけた住宅設計についてお話します。　住宅は人の生活に密着している点に難しさがあり、またそこが建築家としての面白みでもあると思います。都内の屋敷町の中にある位置する現地には森のごとく木が茂っている都心とは思えない良好な環境に建てた住宅です。施主は伝統的日本文化の衰退を危惧しておられ手作りの様式が現代の日本建築を完成させたことを海外から訪れたお客様に見て頂き、日本文化の素晴らしさを世界に発信したいという希望を持っている人でした。そこでこの本格的木造建築の家が実現致しました。

（某　住宅）

もう一つご紹介いたします。

鎌倉の古刹の境内に女性ひとりの余生を楽しむために建てた小さな住宅です。

庭の一部が崖になっていてそこに石仏が安置された祠がある風情ある敷地なので自然との一体感を図った平面といたしました。廊下で繋がれた建物によって玄関・洗面所・応接間・客室8帖を含めて、ひとつの接客空間と仏間などのプライベートの空間が分離されています。　応接間・客室8帖の開口部の建具はすべて戸袋に収納することができます。建具が収納されることによって広い視野のなかで四季おりおりの景色を室内から楽しめます。生活をゆっくり楽しむ場として、飽きのこない住宅という点では非常に満足した住宅でした。

次に谷中にある日本美術院は1898年に岡倉天心が創立した美術研究団体で院展の開催をはじめ、活動は日本美術界において大変意義深いものであります。30年前にも設計を依頼され平屋建ての建物を設計しましたが、狭くなり建て直しが計画され引き続き私が設計を担当することになりました。設計に当たり第一に考えたのは関東大震災や戦争の被害を免れ、木造の寺院や住まいが数多く残っている風情ある周辺・街並みとの調和でした。周辺の住民の景観・環境に対する関心も高く以前からそこに存在していたかのような景観に溶け込ませ、さらに以前よりもっと広い面積をどのように確保するか　が課せられた課題でした。

最後に　先生の夢を語られました。

今、日本建築が殆ど作られなくなり、古来より脈々として受けつがれた技術が残ってゆくのは社寺建築だけという可能性の多い現状です。

技術を継承してゆくことは大切な事と思いますし、日本建築の技術・知恵・美意識、そして建物を造る棟梁や職人たちが大切にしてきた探究心や辛抱強さといった精神性を含め、次世代を担う方々に伝えていけるような環境づくりができれば、と思っていますが日本建築を建てるという需要がないという事ではなかなか難しい事だと思います。便利さだけが主にされる現代にあって、工程を積み重ね丹念に造ってゆく事の重要性を認識する、その意味でも日本建築を後世に伝えてゆくことは大変意義のあることだと考えています。

洋風建築では味わえない日本建築の奥ゆかしさと魅力を一人でも多くの方々にわかって頂き、日本建築を後世に残してゆく、それと同時に新しい本格的な日本建築様式、これを確立するまでが私の夢であります。

６０名を超える参加者の前で、次世代の日本建築を志す若き建築家や、建築を取り巻く美術・工芸にたずさわる人々、そして材料メーカーの人々への、今里先生の熱いメッセージをお聞きしました。　（終わり）

今里　隆氏　略歴

1928年　東京に生まれる
1949年　東京美術学校（現東京藝術大学）建築科卒業
1949～64年　吉田五十八（日本芸術院会員、東京藝術大学名誉教授）研究室勤務
1964年　杉山隆建築設計事務所創設
1988年～91年　東京藝術大学客員教授

醍醐寺霊宝館

日本建築美術工芸協会
第 54 回　aaca 講演会　平成 27 年 10 月 9 日
「次世代に活かす日本建築」

建築家　今里　隆

平山郁夫美術館

住宅詳細

プロフィール

建築家

元東京藝術大学客員教授

日本建築学会会員

（公財）五井平和財団理事（公財）国際茶道文化協会評議員

略歴

1928 年　東京に生まれる
1949 年　東京美術学校（現東京藝術大学）建築科卒業
1949～64 年　吉田五十八（日本芸術院会員、東京藝術大学名誉教授）研究室勤務
1964 年　杉山隆建築設計事務所創設
1988～91 年　東京藝術大学客員教授
2013 年　事務所名を杉山隆事務所に変更

受賞

1968 年　神奈川県優良建築コンクール優秀賞受賞（天嶽院庫裏）
1978 年　SDA 賞金賞受賞（池坊頂法寺会館）
1980 年　東京都建築士事務所協会特別賞受賞（池上本門寺御廟所及び大客殿）
1985 年　SDA 賞受賞（国技館サイン計画）
1986 年　建築業協会特別賞受賞、日本経済新聞新製品賞受賞（国技館）
1989 年　東京建築賞優秀賞受賞（成川美術館）
1993 年　東京建築賞優秀賞受賞（花生カントリークラブクラブハウス）
'93 商環境デザイン賞奨励賞受賞（京都竹茂楼）
1994 年　きょうと景観賞受賞（京都竹茂楼）　BELCA 賞受賞（南座）
1999 年　高松市都市景観賞受賞（松平公益会）
2002 年　東京建築賞奨励賞受賞（(公財)日本美術院）

展覧会・講演

2009 年　パリ吉井画廊にて建築作品写真展 ”Japan, and so beautiful” 開催
2010 年　上越市小林古径記念美術館にてパリ帰国展「日本、そしてその美しさ」開催
2012 年　（公財）竹中大工道具館主催シンポジウム
「近代数寄屋を次世代へ - 伝統の継承と革新を語る」基調講演及びパネラー
2013 年　NHK 文化センター青山教室にて 5 回講座「屋根の美 日本建築のこころ」講師
2014 年　芝浦工業大学主催産学官連携シンポジウム「木の魅力を伝える」基調講演及びパネラー
2015 年　NPO 木の建築フォラム主催「池上本門寺見学会」講師
及び内田祥哉氏（東京大学名誉教授）との対談

- 日　時　平成 27 年 10 月 9 日（金曜日）
受　付　午後 5 時 30 分
講演会　午後 6 時～7 時 10 分
交流会　午後 7 時 20 分～8 時

- 会　場　東京都中央区京橋 2-5-18
銀座線京橋駅　４番出口目の前、
中央通りと鍛冶橋通りの交差点角
AGCスタジオ

- 主　催　（一社）日本建築美術工芸協会